

A訪問看護ステーションにおける介護支援専門員との連携の現状と課題

坂 本 美 香 矢 島 由以子 宮 草 久 美
 築 田 亜矢子 松 田 哲 子

Key Word: 連携 連携力 訪問看護 介護支援専門員

要 約

A訪問看護ステーションの訪問看護師が連携したことのある介護支援専門員を対象に、訪問看護師の連携力を測定するためのアンケート調査を実施した。アンケート調査には、福井ら¹⁾の開発した「多職種連携行動尺度3つのツール」を使用し、自由記載を含む自記式質問紙を対象者に郵送した。データ分析は、「顔の見える関係評価尺度7分類21項目」、「連携意識評価尺度4分類14項目」、「連携行動評価尺度5分類17項目」の全16分類52項目を単純集計し、それぞれの項目毎に4点満点で平均値を求め、得点の高いもの、低いものを抽出し考察した。その結果、全項目中最も得点が高かったのは、連携の基本となる「顔の見える関係」の程度を示す項目であった。得点が低い傾向であったのは、どの程度連携意識をもってチーム連携を行っていたかを示す「連携意識力」と規範となる連携行動が実行できたかを示す「連携行動力」であった。多くのケアマネジャーは、A訪問看護ステーションの訪問看護師に対し、「知りたいこと気さくに聞ける身近な存在」として認識しており、「顔の見える関係」が築けていることがわかった。しかし、「目標達成のための姿勢」、「さらなる成長のための協働」、「予測的判断の共有」など、連携を深めていく上で必要な意識や行動に関する得点は低いことが明らかとなった。ケアマネジャーと連携を維持し強化していくためには、訪問看護師が得意とする分野の情報提供や、ケアマネジャーの得意とする分野を互いに引き出し合いながら行動できる関係性を構築し、チームメンバーとして成長するための課題が示唆された。

は じ め に

A訪問看護ステーションは、がん終末期や進行性難病などの医療依存度の高い利用者が半数以上を占めている。そのような利用者が在宅で安定した療養生活を過

すためには質の高い看護、介護サービスの利用は不可欠である。A訪問看護ステーションの訪問看護師(以下訪問看護師)は、利用者の急な状況変化に応じて介護サービスをマネジメントする介護支援専門員(以下ケアマネジャー)と連携し、情報提供や提案をすることがある。しかし、ケアマネジャーの認識や対応には差があり、訪問看護師が利用者の状況を適切に伝えられているか疑問を感じることもある。

そこで、A訪問看護ステーションと連携したことのあるケアマネジャーに、連携した訪問看護師の連携力について評価を依頼し、訪問看護師の連携上の課題を明らかにすることを目的に取り組んだ。

用語の定義

連携: 前田²⁾が提唱する「連携とは、連絡・連携・統合という三つの状態を発展段階的に理解すること」

連携力は、福井ら¹⁾が開発した、多職種連携行動尺度とする。

I 研 究 方 法

1. 調査期間: 2016年9月5日～2016年9月19日
2. 研究対象: 2015年4月1日～2016年3月31日までに、訪問看護師と連携した実績のあるケアマネジャー 59名(居宅介護支援事業所39カ所)
3. データの収集方法
 - 1) 属性
年齢・性別・経験年数・所有する資格・連携回数・利用者の疾患
 - 2) A訪問看護ステーション看護師の連携力を測定する指標は、福井ら¹⁾の開発した「多職種連携行動尺度3つのツール」の表現を一部変更する事の承諾を受け使用し、自由記載を含む自記式質問紙を対象者の所属する居宅介護支援事業所に郵送した。

旭川赤十字病院 訪問看護ステーション

Present and Problems in A Visiting Nursing Station Cooperate with Care Manager

Mika SAKAMOTO, Yuiko YAZIMA, Sakumi MIYA, Ayako YANADA, Tetsuko MATSUDA
 Asahikawa Red Cross Visiting Nursing Station

福井¹⁾らの「多職種連携行動尺度3つのツール」は、以下の三段階に分けられている。

(1) 第一段階：顔の見える関係評価尺度は、連携の最も基本となる顔の見える関係の程度を測定するものであり、「訪問看護師とやりとりができる」「訪問看護師の役割がわかる」「地域の関係者の名前と顔・考え方がわかる」「地域の多職種で会ったり話し合う機会がある」「地域の相談できるネットワークがある」「地域のリソース(資源)が具体的にわかる」「退院前カンファレンスなど病院と地域の連携がよい」の7分類21項目となっている。

(2) 第二段階：連携意識評価尺度は、チームメンバーそれぞれがどの程度連携意識をもってチーム連携を行っていたかを測定するものであり、「チームのもつ目標の明確化」「チームメンバー間の信頼関係」「目標達成のための姿勢」「チームのさらなる成長のための協働」の4分類14項目となっている。

(3) 第三段階：在宅医療従事者における連携行動評価尺度とは、一人の利用者に対して規範となる連携行動が実行できた程度を測定するものであり、「チームの関係構築」「意思決定支援」「予測的判断の共有」「ケア方針の調整」「24時間体制」の5分類17項目となっている。

各項目を5段階評価とし、そう思う4点、少しそう思う3点、どちらでもない2点、あまりそう思わない1点、そう思わない0点とした。

4. データの分析方法

全16分類52項目を単純集計し、それぞれの項目毎に平均値を求めた。そのうえで、A訪問看護ステーションの連携上の強みと弱みを知るために、得点の高いもの、低いものを抽出し考察した。

5. 倫理的配慮

A病院倫理委員会の承諾を得た。回答は無記名とし、対象者には、自由意思の尊重、匿名性の保証、研究の目的以外に使用しないことを明記、アンケートの返信をもって協力の同意とした。

Ⅱ 結 果

ケアマネジャー 59名に郵送し、回収数44(回収率75%)有効回答数42(有効回答率71%)であった。

1. 属性

1) 経験年数：2年未満2名(4%)、2～5年12名(29%)、6年～9年12名(29%)、10年以上16名(38%)。

2) 所有する資格(複数回答)：介護福祉士33名(79%)、社会福祉士5名(12%)、看護師6名(14%)。

3) 年齢：30歳～40歳未満7名(17%)、40歳～50歳未満12名(29%)、50歳～60歳未満19名(45%)、60歳以上4名(10%)。

4) 性別：女性35名(84%)、男性7名(16%)。

5) 連携回数：10回未満20名(49%)、10～20回12名(30%)、20回以上9名(21%)。

6) 利用者の対象疾患(複数回答)：慢性疾患25名(59.4%)、終末期と進行性難病24名(57%)。

2. 多職種連携行動尺度3つのツールの結果

1) 第一段階の連携力「顔の見える関係力」(図1)。21項目中、得点が高かったのは、訪問看護ステーションとの連携に対する心理的な関係性をはかる尺度分類である「1. 利用者を一緒に見ている訪問看護師に知りたいことを気軽に聞ける」(3.69)、「2. 一緒に見ている利用者のことで連絡を取るときに躊躇せずに連絡ができる」(3.54)であった。得点が低かったのは「8. 利用者にかかわっている訪問看護ステーションの理念や事情が分かる」(2.21)、「12. 地域連携に関して課題や困っていることを共有し話し合う機会がある」(2.24)であった。

2) 第二段階の連携力「連携意識力」(図2)。14項目中、得点が高かったのは「1. あなたは、療養者を支えるためのチームの目標を明確に理解していた」(3.21)、「5. メンバーそれぞれが、チームの一員であると認識できていた」(3.12)、「7. メンバーは、お互いを理解し、受け入れられていると感じていた」(3.12)であった。得点が低かったのは「13. チームが問題解決のための、新たなアイデアを導くのに、必要な時間を注いでいた」(2.55)、「9. チームが何を行っているかについて、メンバー皆が常に問いかけていた」(2.57)、「10. チームが最良の目標を達成するために、メンバー皆が取り組んでいることの弱点を捉えようとしていた」(2.57)であった。

3) 第三段階の連携力「連携行動力」(図3)。17項目中、得点が高かったのは「2. 訪問看護師が提供しているサービスの具体的内容を情報収集した」(3.6)、「1. チームを組んだ訪問看護師と気後れせずに何でも聞ける関係を築いた」(3.12)であった。得点が低かったのは「10. 今後起こりうる利用者の病状の変化について自身の専門性から予測し訪問看護師に伝えた」(2.24)、「11. 今後起こりうる利用者の生活状況の変化について自身の専門性から予測し訪問看護師に伝えた」(2.24)であった。

連携力を段階別に評価した平均値の結果は、第一段階「顔の見える関係力」(2.97)、第二段階「連携意識力」(2.85)、第三段階「連携行動力」(2.65)であった。

Ⅲ 考 察

アンケート結果から、訪問看護師はケアマネジャーから「顔がわかり、連絡する上で躊躇せずに気軽に聞ける」、「なんでも相談できる相手」と認識されていることがわかった。情報収集や情報の共有に必要な連絡やコミュニケーションが図りやすい存在として認められており、訪問看護師とケアマネジャーは、顔の見える関係が構築できていることがわかった。また、「利用者を支えるチームの目標やメンバーとしての役割を理解し、受け入れられている」と感じている項目も高いことから、訪問看護師を連携相手として信頼し、良好な関係が築かれることで、スムーズな情報交換を可能にしていると考えられる。

水野³⁾は、「訪問看護師の言動や姿勢、態度はケアマネジャーとの関係を良好に保つための重要な要素と認識す

る必要がある」と述べている。ケアマネジャーと訪問看護師は、利用者の病状や状態の観察、現状のとらえかたや、アセスメントの違いにより、問題や解決策、サービスに対する考え方に違いが生じることもある。そのため、互いに気づいたことを早い段階で共有し、より迅速に適切なサービスの提供を検討する必要がある。訪問看護師は、日頃から相手に伝わりやすい言葉選び、誠意ある姿勢を意識して関係者と連携を図り、何でも話せる良好な関係を保つことが重要である。

一方で、「利用者に関わっている訪問看護ステーションの理念や事情が分かる」「地域連携に関して課題や困っていることを共有し話し合う機会がある」など、ケアマネジャーと訪問看護師の顔の見える関係が地域連携や多職種連携に関係しているかを問う項目の得点は低かった。これは、ケアマネジャーと訪問看護師が、所属している事業所の考えを改めて話し合う機会がないこと、ならびに、利用者の関係者としてだけではなく、介護サービスに関わる関係者として一同に会する機会が少ないことが要因と考えられる。そのため、様々な利用者の抱えている課題を集約し、地域包括ケアの視点から、地域全体の問題や課題として認識する必要性が示唆された。

連携意識力に関しては、「チームが問題解決のための新しいアイデアを導くのに必要な時間を注いだ」など、目標達成のための姿勢やさらなる成長のための協働、予測的判断の共有を問う項目が低い得点であった。ケアマネジャーと訪問看護師は、利用者の現状に応じたサービスの提供を検討する関係であるが、互いの成長のために新たなアイデアを導くような話し合いをする時間が不足している。その時間不足が、問題解決や目標達成に対するチームの意識や姿勢に影響していると考えられる。さらに、訪問看護の利用者は、病状の進行や急変の予測が困難なことも多く、日常生活援助において医療的な観察の視点やアセスメントが必要不可欠であるが、ケアマネジャーの所有する資格は福祉職が多く、病状変化に対する判断の困難性が影響していると考えられる。医療依存度の高い利用者との関わりでは、適切かつ迅速なサービスの提供が求められるため、訪問看護師から積極的な情報提供をするとともに、伝わりやすい情報伝達方法の工夫が示唆された。

訪問看護師とケアマネジャーは、互いの顔や名前がわかり連絡や相談しやすい関係が築けていることがわかった。しかし、顔の見える関係ができたあと、さらに有効な連携を築き上げるためには、チームメンバー個々が連携意識を高め、訪問看護師が得意とする分野の情報提供や、ケアマネジャーの得意とする分野も互いに引き出し合いながら行動できる関係性の構築が不可欠である。さらに連携行動を強化するために、関わった事例の経験を積み重ね、事業所や組織、地域とのつながりへと広げることが今後の課題である。

IV 結 論

1. A 訪問看護ステーションと連携したことのあるケアマネジャーに「多職種連携行動尺度」を使用して連携力を

測定した。

2. 三段階、16分類52項目中、一番得点が高かったのは「利用者をみている訪問看護師に知りたいことを気軽に聞ける」であり、一番得点が低かったのは「利用者に関わっている訪問看護ステーションの理念や事情が分かる」であった。
3. 訪問看護師とケアマネジャーの良好な関係を保ちつつ、互いにチームメンバーとして成長するための課題が示唆された。

お わ り に

訪問看護を必要とする利用者が、在宅で安定した療養生活を継続するためには、質の高い看護と介護サービスの充実が不可欠である。利用者の目標達成に向けて、訪問看護師がケアマネジャーと「連携」し、効果的なチームとなり支えられるように、連携上の課題の一つひとつを意識してかかわっていきたい。

本研究は、平成29年度北海道看護研究学会にて発表した。

謝 辞

本研究の主旨を理解し、調査に協力いただいた介護支援専門員ならびに居宅介護事業所の皆様に感謝致します。

文 献

- 1) 福井小紀子他:「顔の見える関係」ができた後の多職種連携とは? 第1回訪問看護と介護, 20(11), 938-941, 2015.
- 2) 前田信雄:保健医療福祉の統合(1), 13 勁草書房, 1990.
- 3) 水野伊津子:在宅療養者にとって最適サービス提供につながる連携へ, 訪問看護と介護, 16(7), 585-589, 2011.

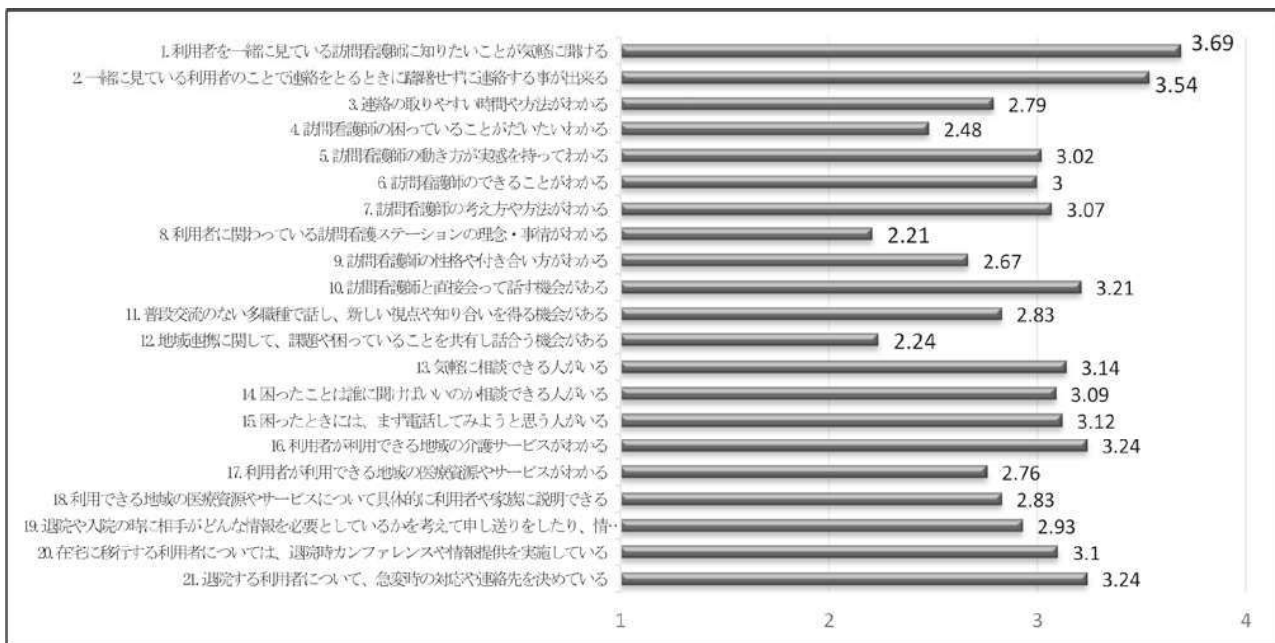


図1. 第一段階「顔の見える関係力」の結果

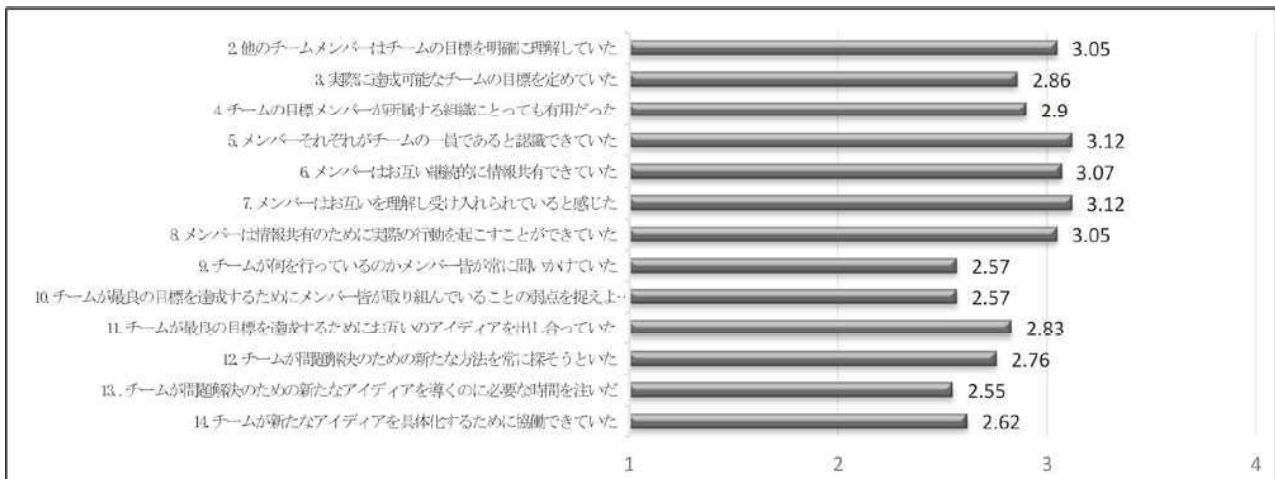


図2. 第二段階「連携意識力」の結果

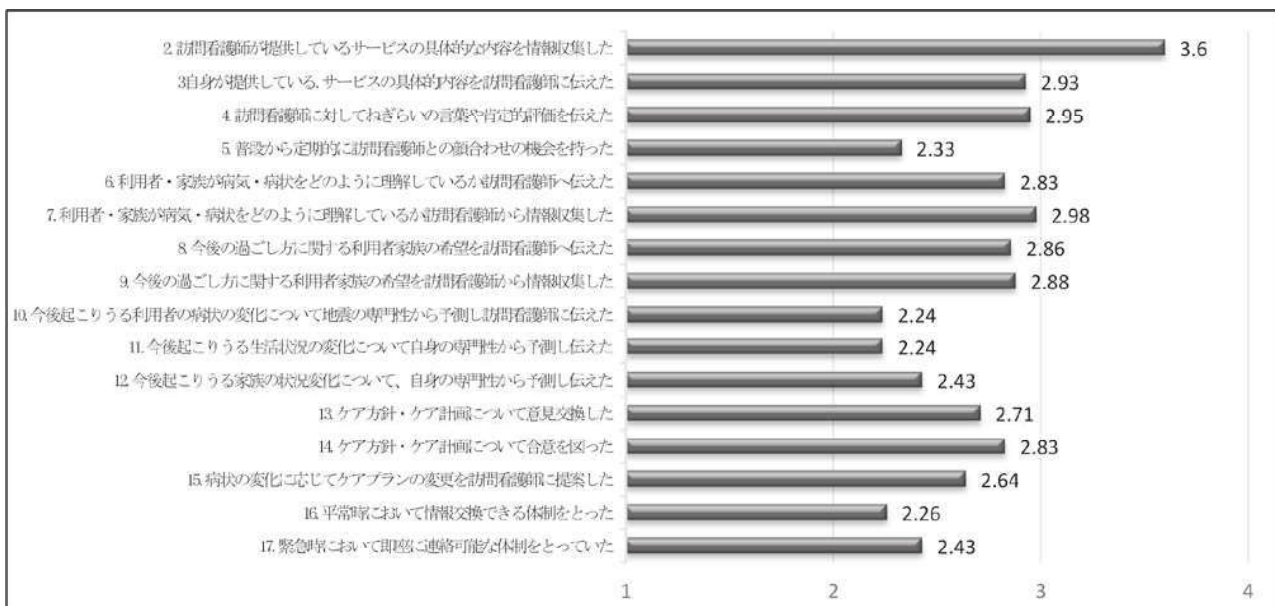


図3. 第三段階「連携行動力」の結果